太宰府市短歌ポスト第百十四期入選歌

（令和四年五月二十六日）

選者　大久保富士子

坂本の梅林は一分咲きなれど万葉の碑に歌ごころわく
春日市　山本憲一

春が来て大学へ行く長男と太宰府訪ひ未来を祈る
宗像市　野田泰裕

太宰府の駅の広場に坐りをり天下の春の真っただ中を
福岡市　竹森祐彦

城であり寺をも持ったこの山は土塁が語るひにし元人を
神埼市　陳内敏夫

太宰府にてエプロンとルーペ祖父母にと久留米と博多の織物柄な
京都市　西藤隆

友の写真スマホに溢れる卒業旅行来年もまた太宰府に来む
大阪府　寺塩祐月

五守りを見れば貰ゆ受験の日母はここに買ひに来しかな
京都市　福永千裕

コロナ禍でやっと話せた級友と単位取得を願って詣づ
福岡市　馬場和奏

振り向けばなにやらゆかし太宰府は過去と今とが交差する街
田川郡　佐藤直

かまど社に深き瞳の鹿一歩パンをかじりて今日を生き抜く
福岡市　冨島京子

小・中学生の部

桜咲く冬が終わって春が来る太宰府の町桃色になる
飯塚市　前さえら